

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20030

建築物名称	(仮称)川崎市宮前区宮前平二丁目計画
建築主	株式会社シノケンプロデュース 代表取締役 玉置 貴史
建築物の所在地	川崎市宮前区宮前平二丁目3番22、24
設計者氏名、建築士事務所名	小野田 貴夫 株式会社小野田建築設計事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,446.01m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和4年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎市宮前区宮前平二丁目計画	階数	地上5F
建設地	川崎市宮前区宮前平2-3-22,24	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	76人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年10月20日
敷地面積	1,069 m ²	作成者	杉原潤一
建築面積	509 m ²	確認日	2020年10月22日
延床面積	2,446 m ²	確認者	小野田貴夫

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 88% ③上記+②以外の 88% ④上記+ 88%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能: 5 Q1 室内環境: 3 Q3 室外環境(敷地内): 2 LR1 エネルギー: 3 LR2 資源・材料: 2 LR3 敷地外環境: 3</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.3</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.1</p>	<p>LR2 資源・材料</p> <p>LR2のスコア = 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.1</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市の緑化指針基準に適合する緑化を行う	1.9/4.3	2.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象台データを確認	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御		1.6/2.2	3.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	地上部および屋上に緑地を設ける	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等級3相当 BEI=0.98	3.1/5.0	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.6/4.7	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象台データを確認	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	地上部および屋上に緑地を設ける 地上部および屋上に緑地を設ける	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等級3相当 BEI=0.98	3.1/5.0	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象台データを確認	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化等級3相当	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等級3相当 BEI=0.98	3.1/5.0	3.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境										3.2
1 音環境										3.3
1.1 室内騒音レベル										0.50
1.2 遮音										0.50
1 開口部遮音性能										0.30
2 界壁遮音性能										0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										0.20
1.3 吸音										-
2 温熱環境										3.0
2.1 室温制御										0.50
1 室温										0.63
2 外皮性能										0.38
3 ゾーン別制御性										-
2.2 湿度制御										0.20
2.3 空調方式										0.30
3 光・視環境										3.1
3.1 昼光利用										0.30
1 昼光率										0.50
2 方位別開口										0.30
3 昼光利用設備										0.20
3.2 グレア対策										0.30
1 昼光制御										1.00
3.3 照度										0.15
3.4 照明制御										0.25
4 空気質環境										3.6
4.1 発生源対策										0.63
1 化学汚染物質										1.00
4.2 換気										0.38
1 換気量										0.33
2 自然換気性能										0.33
3 取り入れ外気への配慮										0.33
4.3 運用管理										-
1 CO ₂ の監視										-
2 喫煙の制御										-

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.5
1 機能性					2.7	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.57	3.0	0.60	
1	広さ・収納性					-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応					-	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性					-	-	2.0	0.40	
1	広さ感・景観					-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース					-		-	
3	内装計画				-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理					2.5	0.43		-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	R			5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R			3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20		-	
2.4 信頼性					2.2	0.20		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20		-	
3	電気設備				1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.0	1.00	2.1
3.1 空間のゆとり						-	1.0	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出				G	W				2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					2.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				

LR 建築物の環境負荷低減性										3.0			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H						3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用	W	H						3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	W	H	[BEQ][BEIm] =	0.98				3.2	0.50	-	-	3.2
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価													
4.1	モニタリング	W	H						3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	W	H						3.0	-	-	-	
集合住宅の評価									3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	W	H						3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	W	H						3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	2.7
1	水資源保護	W	R						2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水								1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無								3.0	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.9	0.60	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減	W	R						2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R						3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R						3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R						1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R						3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R				LGS壁を採用		5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	W							-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	W							3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	W							3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境										0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	W							3.4	0.33	-	-	3.4
2	地域環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W						3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制								3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減						R		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制						R		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制						R		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制						R		3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
1	騒音								3.0	1.00	-	-	
2	振動								-	-	-	-	
3	悪臭								-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制								3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制								3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	

20030

(仮称)川崎市宮前区宮前平二丁目計画

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に
基づいています。